様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

平成 ２６ 年　 ６ 月 １７ 日現在

機関番号：１０１０１
研究種目：基盤研究(B)
研究期間：2010～2013
課題番号：２２４０２０３４

研究課題名（和文）ポストグローバル時代の東アジアにおける階層分化と宗教文化再編

研究課題名（英文）Stratification and Religious Change of East Asia in Post Global Age

研究代表者
櫻井　義秀（Sakurai, Yoshihide）

北海道大学・文学研究科・教授

研究者番号：５０１９６１３５

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　14,000,000円、（間接経費）　4,200,000円

研究成果の概要（和文）：　本研究グループは2010-12年度の研究助成「ポストグローバル時代の東アジアにおける階層分化と宗教文化再編」を受けて調査研究を実施し、次の研究成果をあげることができた。①日本、韓国、中国、タイの4カ国において、政教関係、階層変動、グローバリゼーション、宗教変動（伝統宗教、新宗教、外来宗教など）、宗教文化・スピリチュアリティ、宗教の社会的機能に関して、比較調査を行った。②各地域における事例研究と質問紙による比較調査の知見をまとめて、「宗教と社会」学会と日本宗教学会の各年、2011年の国際宗教社会学会、2013年の台湾中央研究院との国際ワークショップにおいて研究成果報告を行った。

研究成果の概要（英文）：This research group had conducted comparative research of four countries such as Japan, Korea, China, and Thailand in terms of politic-religious relations, change of class, the effect of globalization, religious change of traditional religions, new religions, and foreign religions, religious culture/spirituality, and social function of religions.
And we presented our papers on the results of our case studies and surveys on four countries at the annual conference of Religion and Society, Religious Studies, International Society of Studies of Religions in 2011, and the workshop with the Academia Sinica, Taiwan in 2013.

研究分野：宗教社会学

科研費の分科・細目：社会学・社会学

キーワード：ポストグローバル　階層変動　宗教文化変容　東アジア

１．研究開始当初の背景

東アジア（東北アジア・東南アジア）では、グローバル化により引き起こされた地域・階層間格差が 1997 年のアジア金融危機によってさらに増大し、新自由主義政策で経済の底上げを図ろうとした政治の矛盾が噴出している。先進国の日本・韓国では中間層の分解、貧困層の拡大が進み、中進国では都市農村格差の拡大、少子高齢社会に対応する社会保障の未整備が大きな問題である。

ポストグローバルの視点とは、このような社会問題を生み出した世界資本主義に対抗する反グローバリズム思想や抵抗戦術に限定されるものではなく、地域社会の文化伝統に根ざしながらも現実的課題と向き合う中で現代化されたローカルな知や戦略によって社会問題を解決しようという試みに着目することである。

２．研究の目的

本研究では、①東北アジアの先進国として日本・韓国・台湾、同地域の中進国である中国と、東南アジアの中進国であるタイを調査対象に設定し、グローバル化による中間層の分解と貧困層の増大により、基層的な宗教文化や諸宗教の教勢にどのような影響を与えているのか、②社会的排除を生み出す社会構造的な問題を宗教文化がどのように宥和し、教団や宗教者が不足する社会的支援や公共的価値を生み出すことにどのように与っているのかを明らかにする。

日本が戦後 60 年で経験した社会・宗教変動が部分的であれ、ポストグローバル時代の東アジアにおいて短期間に出現している。東アジア社会の宗教分析に日本の宗教社会学の知見を生かし、研究代表者が行ってきた地域研究と宗教社会学の問題意識の接合を図ろうと考えている。

３．研究の方法

地域研究・社会階層研究の実証的方法によって、①ポストグローバル時代における宗教文化の再編成を階層構造の変容から明らかにし、②社会事業に宗教が関わることを許容・促進、ないしは阻止する政教関係との関連で宗教が社会資本としてどのように当該社会で機能しているのかを考察する。本研究計画では日本の研究者が現地研究機関の研究者と共同で調査研究を行い、学術的交流や大学院生(留学生)の育成等も図る。

具体的には、東アジア諸国（中国・韓国・台湾・タイ）を調査対象地と定め、平成 22 年度は研究打ち合わせと予備調査を兼ねて海外 4 カ国を視察し、共通の調査項目の設定を行う。平成 23 年度に本調査を共同で行い、平成 24 年度は補足調査と成果発表・成果とりまとめにあてる。

４．研究成果

本研究グループは 2010-12 年度の研究助成「ポストグローバル時代の東アジアにおける階層分化と宗教文化再編」を受けて調査研究を実施し、次の研究成果をあげることができた。

(1) 2010 年度の成果は次の通り。

①研究代表者･分担者の研究打ち合わせと問題意識の共有を図ったシンポジウムを北海道大学で開催した（2010 年 9 月 15 日、「ポストグローバル時代の東アジアにおける社会変動と宗教変容」）。

②海外に共同研究者を開拓するべく、櫻井は中国調査（8 月太原・五台山）、学会参加（8 月トロント大学にて国際宗教学･宗教史学会世界大会、10 月北京フォーラム、12 月第 4 回世界カルト問題国際会議、深せん）。

(2) 2011 年度の成果は次の通り。

①2012 年 1 月 7 日に研究代表者･分担者の当該年度の研究成果発表のシンポジウムを北海道大学で開催し、7 本の研究発表を行った。櫻井義秀「ポストグローバル時代における宗教多元化－日本の状況・東アジア比較への視点」中村則弘「民族間の対立回避と曖昧さ－中国底辺階級の価値意識から」
平澤和司「仮　東アジアにおける階層変動を捉える計量社会学的視点」田島忠篤・李賢京「日韓のキリスト教会調査」伍嘉誠「香港における創価学会の定着と変容」吉喜潔「調査報告　山西省五台山の聖地観光と仏教復興」韓ショ「調査報告　陝西省西安の仏教寺院」また 8 日には猪瀬優理『信仰はどのように継承されるか－創価学会にみる次世代育成』北海道大学出版会と李元範・櫻井義秀『越境する日韓宗教文化－韓国の日系新宗教と日本の韓流キリスト教』北海道大学出版会の書評シンポジウムも開催した。

②櫻井は中国調査（9 月西安）、タイ調査（1 月）、宗教多元主義の国際シンポジウム（2 月、パドバ大学）を行い、中村は中国調査、田島・李賢京は韓国･日本においてカトリック教会数カ所で調査票調査を実施した。稲場は震災後の復興支援と教団の調査、猪瀬は文献研究を行った。

(3) 2012 年度の成果は次の通り。

①韓国・中国・日本・タイで同一の調査票を用いて、キリスト教会の調査を実施した。韓国ではソウルと釜山、大邱のカトリック教会、中国は上海のプロテスタント（公認教会と家庭教会）、日本では東京の韓国カトリック教会、タイではラーチャブリー県のカトリック教会とプロテスタント教会である。

それぞれの教会を比較した知見としては下記のことが明らかになった。1)社会階層に関しては、日本・韓国・中国の信者の学歴・社会層ともに高く、最も高いのはタイであり、中間層が多かった。2)洗礼は家族の影響が多かったが、中国とタイでは宣教活動により友

人や宣教師の影響を受けたものが多かった。3)信仰で最も篤かったのは中国であり、韓国とタイがそれに次ぎ、日本はそれほど強くはなかった。4)社会関係資本に関しては、中国とタイにおいて高階層のネットワークがあり、日本と韓国では中程度のネットワークを形成していた。
②最終年度の成果発表の研究会として 3 月 2 日から 3 日にかけて国際ワークショップを開催した。台湾の中央研究院から Hei-yuan Chiu 教授、Chang ying-Hwa 教授、科研メンバーでは、タイの Rajapak 大学から Juthathip Suchariku1 助教授、韓国の東西大学から李賢京特任講師、中国上海科技大学から徐京准教授を招き、科研メンバーでは、愛媛大学の中村則弘、天使大学の田島忠篤、慶應大学の宮坂清、関西学院大学の村島健司、北海道大学の櫻井義秀と寺沢重法および大学院生等が参加した。

(4) 以上をまとめると次のようになる。

海外調査では社会の構造変動と文化変容の連関を調査するという点で成果を収めた。日中韓が領土問題で緊迫した情勢になった 2012 年にも中国調査を実施し、四川省の東チベット地区で 1 万人弱の僧・尼僧がいるチベット仏教修行地と学院を視察し、上海のキリスト教会（公認教会と家庭/地下教会）を含めて韓国・タイ・日本で共通の調査票を用いたキリスト教徒対象の調査票調査を各 200 名程度ずつ実施した。しかしながら、東アジア地域の現代宗教の動態を考察するには、単純な＜社会構造－文化＞の変動モデルや、宗教運動のトランスナショナリティを加えた宗教市場論的なマクロ的分析だけでは不十分なことが分かってきた。

今後は、各地域の体制形成期から現在までの宗教の制度分析を深化させた上での宗教動態を分析することが今後のマクロ的調査の課題として考えられ、本研究グループはこの点を検討するプロジェクトをさらに行う予定である。

５．主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計　9　件）

1 中村則弘,2013,「両義性と流動性からみつオルタナティブな社会－グローバル化時代への東アジアからの問い－」21 世紀東アジア社会学 5：79－90　査読有り

2 稲場圭信,2012,「東日本大震災における宗教者と宗教研究者」宗教研究 373:29－52　査読有り

稲場圭信,2012,「日本人の利他性と「無自覚の宗教性」」中央公論 5：40－47　査読無し

3 櫻井義秀,2011,「タイにおける＜都市－農村＞関係の変動と再編－社会的排除・包摂の視点から」タイ研究 11：89－106　査読有り

4 櫻井義秀,2011,「東アジアにおける宗教文化変容の比較研究　特集：国際比較調査の困難性と可能性」社会と調査 11：42－50　査読有り

5 櫻井義秀,2011,「ソーシャル・キャピタル論の射程と宗教」宗教と社会貢献 1－1：27－51　査読有り

6 稲場圭信,2011,「無自覚の宗教性とソーシャル・キャピタル」宗教と社会貢献 1－1：3－26　査読有り

7 中村則弘,2011,「偶然性への作法－東アジアの視点からみた東日本大震災と原発事故」日中社会学研究 19：13－23　査読有り

8 佐々木香澄・櫻井義秀,2012,「タイ上座仏教寺院と HIV/AIDS を生きる人々－プラバートナンプ寺院を事例に」タイ研究 12：21－41 査読有り

9 Sakurai Yoshihide,2010, Geopolitical Mission Strategy: The Case of the Unification Church in Japan and Korea, Japanese Journal of Religious Studies 37－2:317-334　査読有り

〔学会発表〕（計　0　件）

〔図書〕（計　7　件）

1 三木英・櫻井義秀編,2012,『日本に生きる移民たちの宗教生活－ニューカマーのもたらす宗教多元化』ミネルヴァ書房　総頁数 314

2 櫻井義秀・濱田陽編,2012,『アジアの宗教とソーシャル・キャピタル』明石書店　総頁数 302

3 李元範・櫻井義秀編、2011,『越境する日韓宗教文化－韓国の日系宗教　日本の韓流キリスト教』北海道大学出版会　総頁数 512

４이원범, 사쿠라이요시히데 지음(李元範・櫻井義秀編)、2011,『한일 종교문화 교류의 최전선－－－일본의 한류와 한국의 일류」 인문사 (『韓日宗教文化交流の最前線－日本の韓流と韓国の日流』)』人文社 総頁数 562

5 稲場圭信、2011,『利他主義と宗教』弘文堂　総頁数 224

6 櫻井義秀・中西尋子,2010,『統一教会－日本宣教の戦略と韓日祝福』北海道大学出版会 総頁数 658

7 櫻井義秀・道信良子編、2010『現代タイにおける社会的排除と包摂－教育、医療、社会参加の機会をめざして』梓出版社　総頁数 351

〔その他〕

ホームページ等

http://keishin.way-nifty.com/scar/

６．研究組織

(1)研究代表者

櫻井 義秀　（SAKURAI Yoshihide）北海道大学大学院・文学研究科・教授
　研究者番号：５０１９６１３５

(2)研究分担者

　田島 忠篤　（Tajima Tadaatsu）天使大学・看護栄養学部・教授
　研究者番号：40179693
　稲場 圭信　（Inaba Keishin）大阪大学・人間科学部・准教授
　研究者番号：30362750
　平澤 和司　（Hirasawa Kazushi）北海道大学大学院・文学研究科・教授
　研究者番号：30241285
　中村 則弘　（Nakamura Norihiro）　愛媛大学・法文学部・教授
　研究者番号：10192676
　猪瀬 優理　（Inose Yuri）　龍谷大学･社会学部・講師
　研究者番号：60455607